

第2回外部評価委員会会議録

日時：平成29年1月25日（水）

午前10時から正午

場所：県徳島合同庁舎本館 4階会議室

（1）普及指導業務の評価

1）評価の視点・評価表について

評価の視点・評価表について説明。

2）美馬農業支援センターの活動概要及び重点課題の取組みについて

管内の農業・農村の現状と課題、普及指導活動の方針、普及活動体制について説明。続いて、重点課題「美馬地域の特色を活かした産地育成（飼料用米生産等による水田利活用の推進）」及び「美馬地域の多様な担い手の育成（『かあちゃん野菜』の取組支援）」について説明。

（質疑）

委員：飼料用米の補助金は、個人と法人で違いはあるのか。

回答：個人と法人で違いは無い。

委員：飼料用米の需要量はあるのか。

回答：需用者からは、更に1000t程度ほしいと聞いている。

委員：飼料用米の生産は所得に反映されているのか。

回答：所得向上に繋がっているほか、主食用米と異なり収穫時期をずらすことが出来るため、作業の分散に繋がっている。

委員：給与時期は、また飼料用米の配合割合を増やす計画なのか。

回答：飼育期間12週のうち出荷4週間前に、20%の割合で配合している。畜産研究課では、配合割合を40%、80%と高めて試験を行っているほか、給与期間の延長も検討している。

委員：飼料用米は何を代替する飼料なのか。

回答：トウモロコシの代替飼料として飼料用米を給与している。

委員：飼料用米を給与することで、肉質など付加価値があればよい。

回答：地元産の飼料用米を給与することで、安全安心な阿波尾鶏の生産によりブランド価値が高めたいが、全体の阿波尾鶏からすると飼料用米給与しているのは一部である。

委員：飼料用米の補助制度が無くなった場合、どうなるのか。

回答：一部の県では、補助が無くても飼料用米の栽培は可能と聞いているが、美馬地域では補助が無ければ、栽培は困難である。

委員：水田の裏作利用については、どうなのか。

回答：美馬地域では、野菜栽培も少なく、あまり利用されていない。

委員：かあちゃん野菜の女性会員が増加している理由は。

回答：J A 美馬等の推進によるもの。

委員：乾燥野菜の販売先の用途は。

回答：消費者からの要望もあれば、新たに商品化して売り込む野菜もある。

3) 三好農業支援センターの活動概要及び重点課題の取組みについて

管内の農業・農村の現状と課題、普及指導活動の方針、普及活動体制について説明。続いて、重点課題「野菜増産に向けた作付け拡大」及び「地域資源活用・民泊への支援による担い手の育成」について説明。

(質疑)

委員：野菜増産の課題は。

回答：高齢化や担い手減少が要因で規模拡大が難しい。

委員：農家民宿は所得の向上に繋がっているのか。

回答：平成27年は、関西を中心とする中学生の修学旅行生の教育民泊として、三好管内で約3,700人が利用があった。

数十万の現金収入を得ている農家もあると聞いている。

委員：三好地区はアウトドアを中心としたレジャー資源があるので、これらと農家民宿や農業体験とを上手に組み合わせた体験型ツアーを実施することで国内外からの観光客を呼び込めると思うので、三好市等と連携し今後進めていただきたい

委員：伝統食材は何に使うのか。

回答：餅に加工することが多い。

委員：ジビエは常に手に入るのか。

回答：三好地区に2カ所の加工処理施設があり、年間150頭程度を処理し、充分量を供給している。

(2) 教育研修業務の評価

1) 農業大学校の現状と今後の方向について

農業大学校の現状、課題及び今後の方向について説明。

委員：アグリビジネススクールの対象者が分かりにくい。

回答：経営コースは、今後6次産業化を目指す者など幅広く対象としている。テクノ科の基礎講座は、農地の取得を要件としているが、応用講座は幅広く対象としている。

委員：県内若手農業者で意欲的な取組をしている者も多いが、農大との関わりは。

回答：先輩就農者の講演会を開催したり、農業青年・高校生・農大生・徳大生による交流会の開催などを実施している。